

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370900435		
法人名	医療法人社団 福本会		
事業所名	グループホーム 和楽		
所在地	熊本県天草市牛深町1641番地4		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年2月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は、皆様が暮らしを営んでこられた町の中に位置しており、四季折々の緑豊かな中庭を挟み書斎館、式番館があります。春には中庭の中央にある桜をそれぞれのリビングから楽しむことができます。また畑では野菜を育て収穫を入居者の方々と一緒に行うことで楽しみや喜びに繋がっています。入居者様お一人お一人を尊重し、これまで生活されてきたスタイルや習慣を継続し地域に根ざした和やかに楽しい暮らしを支援しています。現在はコロナ禍の為地域の行事への参加は出来ない状況が続いておりますが、平時になり次第地域活動への参加が再開出来るよう入居者様の健康管理には十分配慮しています。医療面の連携においても永年地域で医療に取り組んできた母体病院があり、入居者様ご家族にも安心していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年、地域の中に息づいたホームでは102歳を筆頭として高齢化傾向にあるが、新たな管理者を盛り立て、何が出来るか全員で考え、日々のケアに直結させている。家族との関係性の継続に毎月の報告書や動画での発信が活かされ、年末には家族会も開催できたことは、家族の親への熱い思いをくみ取り、行動に移せる職員の姿勢が表われている。法人との連携は医療面の安心のみならず、様々な委員会活動への参加により情報の共有化及び職員のスキルアップへと反映させている。外出の制限の中で、遠方から訪問される家族や正月には自宅への帰省を叶え、これまで出来ていた地域の中での充実した生活がコロナ禍で一変しているが、庭先での時間を楽しみ、入居者の落ち着いた様子に職員の日々のケア姿勢が表われ、ホーム名にふさわしい日常が支援されており、今できる最大限のケアに真摯に取り組むホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目にすることができる食堂に理念を掲示している。そのため、皆で理念を共有し、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる	開設時より”和やかに 楽しく”を理念とし、日々レクリエーション等で楽しく、和やかな暮らしを支援することを全職員が共有している。入居者が和やかに過ごせる様にして具体化したサブテーマも規範としてケアに反映させ、最高齢102歳という高齢化傾向もあるが、98歳といえども杖歩行でホームの日常を盛立ててくださる様子に、ただ『今』を『らしく』生きる姿を見ることが出来るホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍という状況の中、地域交流が難しい日々が続いている。落ち着き次第、交流を再開していけるよう、今のうちから何ができるかを話し合っている。	例年であれば老人会や中学生との相互交流、保育園児の訪問、地区の祭り等地域の中で充実した生活が支援されていたが、祭りや行事も中止となっており、コロナ感染症の収束を見据えた話し合いを行っている現状である。入居者が地域住民と交流することはあまりないが、移動図書館の利用は、アクティビティとした活用されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協主催の介護者交流会に招いていただき、施設での活動や認知症介護についての講話をする機会がありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、書面での開催が多くはなりましたが、委員の方には、貴重な意見を都度いただき、サービス向上につなげている。	運営推進会議はコロナ感染症の状況を見ながら開催の有無を決め、対面による開催が難しい場合には資料を配付し意見等の聞き取りしている。対面での開催時には、日常の様子を映像で開示することでの意見や、ヒヤリハット事例報告によるアドバイス、避難訓練により有意義な意見もあり、職員間で検討し次のステップに反映させる等充実した会議となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、様々な意見をいただいている。また、地域の介護支援専門員連絡会へ参加し、意見交換を行っている。	運営推進会議での意見やアドバイスや、介護保険更新申請に出向き情報を発信し、訪問調査に立ち会っている。また、地域の介護支援専門員連絡会の役員として活動し、コロナ対策や面会、外出対応等他の事業所との意見交換や情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に、母体の身体拘束適正化委員会に参加し、適切な介護が行われているかを評価している。	法人の身体拘束適正化委員会に各ユニット1名ずつの職員が参加し、事例検討等を行っている。職員は否定をしないケアを徹底し、転倒リスクの高い入居者も多く、夜間帯は鈴で職員を呼ばれる方やベッドの下に鈴を付けたり、衝撃マットを利用するなど拘束をしない方法を検討し、実践している。また、職員はオンデマンドにより勉強を重ねており、拘束の弊害を正しく認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンデマンド研修等を受講し、職員一人一人のケアが虐待に当たらないか、常に注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	zoomでの研修会に参加し、学んだことを他職員と共有し、必要になったときに備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際、改定があるときなど、書面を用いて説明を行っており、質問などは常時受け付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催することができ、それぞれ意見をいただけたので、今後の改善に役立てていきたい。	家族との窓越し面会やパーティションを利用し顔を合わせた面会も実現させている。年末には家族会を開催し、意見交換が行われている。職員はコロナ禍の中で準備が不十分であったとして、不参加の家族には報告している。家族の要望として挙げた事案には早速に応え、食事の様子を動画で発信し安心につなげている。家族の中には、遠方から帰省し、自宅での待機後に訪問される等家族の親に対する思いの深さも聞き取りにより確認された。	家族会の開催が入居者と職員との会話や、職員の関わりの場面を見られたこと、スタッフの入居者に対するケア姿勢が見られたこと等に家族からの温かい言葉が掛けられ、職員のやりがいやモチベーションアップに繋がっている。今後も、家族への情報発信、特に何気ない日常の様子等を発信し、家族の安心に繋がれることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	お昼休みや空いた時間に職員それぞれに意見を聞き、情報の収集や反映に努めている	コロナ禍に全員での話し合いは難しい状況にあり、昼休み等を活用し話し合い、その場になかった職員で再度検討し、日々の連絡ノートを職員用と入居者用と使い分け、情報の共有化としている。法人での様々な委員会活動やコロナの状況を見ながら全員集会の開催や、主任会議(月1回)等に参加し、情報交換を行う等職員が意見等を申し出る機会が多く、職員が何ができるかをよく考えながらサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが得意な分野を発揮してもらっている。その内容を年2回の人事考課に記載しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修の参加はできなかったが、法人内での勉強会やネット、リモートで参加している。また、認知症の方の援助方法として、その時に応じてアドバイスを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属し、会議内での意見交換や事業所で苦心しているところなどにアドバイスを得たりしてサービス向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中から本人が困っていることを読み取り、安心して生活してもらえるような環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するに当たり不安に感じられていること等を傾聴し、安心して預けてもらえるよう、様々なケアのパターンの提案している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話を傾聴し、今何が必要なかを職員も交えて検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人一人の能力に合わせ、出来ることを分担して行ってもらうことで、一方的な関係にならないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ禍の為面会も控えられている家族も多いが、お便りにて日々の様子を伝え情報を共有している。地元の家族に限り自宅への帰省を支援いただいている方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で以前のような関係の維持が難しい状況ですが、馴染みの美容室の方数名に定期的に出張していただいております、僅かではあるが関係維持に努めている。	馴染みの人・場と関係性はコロナ禍により希薄になりつつあるものの、馴染みのび美容室の継続や、仕事をされていた時の先輩・後輩として短時間でも合う時間を作り、今であれば帰省できるとして家族の協力により正月に自宅へ日帰り帰省を支援するなど、できる最大限の支援に努めている。運営推進会議のメンバーとして老人会からの参加もあり、開催時には老人会に加入されていた入居者の顔を見て帰られる方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよい方同士でお互いの居室を訪問し合ったり、レクリエーションと一緒に活動したりと孤立しない環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの方が母体である病院へ移られるため、移った後も細かい情報等を伝えやすい環境である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人に担当者をつくり、日々の生活の中で知り得た情報を共有し、本人の希望や意向に沿った暮らしに繋がるよう思いを把握・検討している。	担当制としてなにげない言葉の中から意向を読み取るよう努力をしている。入居者の声である「買い物に出かけたい、買って来て欲しい」や居室環境への要望等に職員が叶えたり、家族に連絡をとり実現させている。また、家族に会いたいとの意向にビデオ電話を活用したケースもある。意思表示が困難、発語が難しい方もおられ、表情での把握や、笑ってくださることをバロメーターとして捉えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中や家族からの聞き取りで、これまでの生活に近い状態で生活できるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定や、会話することによって、日々の状態を把握しそれぞれの方が持つ力を発揮できるケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がモニタリングを行い他の職員と情報を交換しながら担当者会議や家族来訪時に意見を聞きながら、その結果で次のプランへ取り組んでいる	入居者の意向に沿えるよう24時間ソートにより、会話として出た言葉を記録し、本人の意向や健康が維持できるようにとしたプランを作成している。職員の気づきや観察の結果がプランニングに反映され、モニタリングや介護保険見直しによる再作成、心身の状態変化にその都度家族やケアマネジャー、担当職員等との話し合いの場を持つ等、現状に即した具体的なプランを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや、ケアの実践、結果、気づきや工夫したことを記録し、職員間で声を掛け合い、変化があれば連絡ノートを用いて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向をその都度確認し、そのときのニーズに応えることが出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中で以前のような楽しみ方が十分に出来ない中でも、顔なじみの方や知り合い、家族の方が窓越しで面会に来ては、地域のこと等話し会話をすることを楽しんでおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の定期受診はもちろん、本人の体調の悪いとき、急変時など、母体との医療連携が出来ているので、すぐに相談でき安心して生活されている。	入居に際し、母体をかかりつけ医とされる場合には職員が受診を支援することを説明し、かかりつけ医を変更される方もおられる。定期的な受診、及び訪問看護(月2回)により、入居者の医療を支えている。月の便りで家族に定期受診の結果を報告し、変化があれば連絡を行っている。職員は気になる点があれば、その都度訪問看護師にアドバイスをもらい、日々のバイタルチェックや関わりにより早期発見や早期対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回の訪問看護があり、担当ナースが心身の相談事に対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ほとんどの方が母体の病院に入院されるが、毎日のように洗濯物を取りに行ったり、必要なものを届けたりと会うことで情報交換は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期支援は行っていないが、主治医、ナース、家族の方と話し合い、事業所で出来る支援に取り組んでいる。	入居によるリスクを説明し、入居者の状態変化等レベル低下により、今後の方針を家族と話し合っている。母体が医療機関である事や連携が図れることは家族には安心感でもあるが、出来る範囲でホームで生活を希望される入居者や家族の声もあり、最期までの支援は出来ずとも出来る限りのケアに真摯に取り組まれている。	ホームでは100歳を過ぎた入居者等高齢化傾向は否めない状況のようである。家族が親に対する深い気持ちが表われたホームであり、終末期に向けた方針や基準などを明確にされることも必要な時期に来ているものと思われ、検討されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人での勉強会、オンデマンド研修等での学びを職員間でシミュレーションし、定期的実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の訓練を実施し、消防署の方からの説明、注意等を受け、職員全員で共有、入居者の方を安全に避難することが出来るよう身につけている。	昨年は消防訓練後にハザードマップで危険地帯である事を確認し、土砂災害時の避難訓練として指定避難場所まで車椅子のかたも一緒になって訓練が行われている。職員はルートや所要時間が確認出来たことに訓練の意義を見いだしているものの、避難の難しさや避難場所等課題も残るとしている。	備蓄については母体で管理されているが、ホーム独自に必要な物品を検討し準備されることも必要かと思われる。また、避難先への実体験が課題としてあがっており、行政や母体との連携について話し合いを今後も進めて頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉かけにおいては、誇りやプライバシーに配慮し、人格を尊重した生活を送ってもらえるよう努めている。	職員は入居者へ尊敬の念を持って接するように心掛け、特に言葉使いには注意しており、方言を使うことで親しみが表われている事が家族にも伝わっている。入居者と話しながらも馴れ合いにならず、入室時のノックの徹底やトイレでの声のトーン等にも配慮している。守秘義務の徹底や情報漏洩には十分は配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が日常生活の中における希望を理解するよう務め、自己決定が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせたケアを大切にし、その人らしい暮らしと希望に添った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室へ出かけたり、出張してもらったりしながら、その方らしい身だしなみやおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おいしく食べてもらえるよう一人一人に合った形態での食事提供に務めている。準備や片付けは入居者の方が自ら申し出てくださることがあり、そのときは一緒に行っている。	母体病院の厨房からの配達された食事と、週3回(水・金・日)ホームでの調理等を併用し、母体の給食委員会に参加し、好みのメニューや残食の状況、大きさや硬さ等について意見を出し、入居者の意向を反映するように心掛けている。レクレーションとして入居者の希望である団子作り等に一緒に取り組み、行事食の他誕生日には小豆ご飯や手作りケーキで祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みの状態を把握し、水分補給が困難の方には、トロミ材を使用し摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っぽてもらい、一部介助、全介助して口腔内の清潔保持を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声かけや誘導することで失敗を減らせるよう努めている。ズボンの上げ下げなど困難な場合のみの介助している。	日中はトイレでの排泄を基本として、尿意がある方は自らトイレに向かわれている。声かけや誘導が必要な入居者へは個別のチェック表から間隔や状況を見ながら支援している。布下着でもいい方も自身の安心のためにとリハビリパンツを使用する方や、リハビリパンツに尿量や時間帯に応じて尿取りパットを併用したり、ベッド上での交換等一人ひとりの状況を把握し適切に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬のみに頼るのではなく、体操を行ったり、乳製品の摂取や便通により食べ物の摂取をしてもらうなどして便秘対策をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一回を目安に声かけを行い、本人の希望も取り入れながら入浴してもらっている。時間や順番を自分なりに決めておられる方もおられる。	2日ないし3日毎の入浴を目安に支援している。一番風呂や入浴剤使用の希望に応じ、一人ずつゆっくりと入ってもらい、昔話や普段の出来事を話題にしながら1対1の時間を支援し、一人ずつ入浴出来ることで満足されている。入浴が難しい場合には足浴や、足浴用バケツにお湯を張り足を温めながらのシャワー浴等により清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の管理や寝具の調節など、本人の希望に添いながら行っている。寒いときは湯たんぽを使ってもらったりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理しており、都度手渡して服用していただいている。新しい薬が処方されたときは、その旨説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理手伝いや洗濯物を干したりたたんだり出来る方で分担して行ってもらっている。またレクリエーションでもやりたいといわれるものを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、なかなか本人の希望に添えることが出来づらい状況が続いているが、出来る範囲で、家族の協力を得ながら、外出支援に努めている。	コロナ禍に外出が制限された中、手入れの行き届いた中庭の季節の草花や野鳥のさえずりに誘われ散歩に出る等機敏転換に努めている。母体への受診や家族の協力による受診支援が外出の機会の一つとなり、避難訓練で地域に出かけた際は大変喜ばれたようである。	コロナ禍の中での外出の制約もあるが、入居者の行きたい場所等希望の収集や、デイの車両活用についての検討等により今後に備えて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で少額の金銭を管理されている方もおり、欲しい物があるときは金銭を職員へ預けて買い物代行を頼まれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があるときは、夜間、早朝を除き本人にかけていただいている。コロナ禍で会えない遠方在住の家族の方に手紙を書かれる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や除菌を徹底し清潔保持に努めている。居室やリビングには季節を感じられる飾りや華を置いている。	玄関には入居者作の干支の飾り物や手作りのひな人形等が時節を醸しだし、日中の大半を過すリビングは、入居者と職員の団欒の場所や、時にはソファで一人ゆっくり過ごす空間として様々な役目を担っている。コロナ禍により外出が難しかったこの2年あまり、特に室内での過ごし方を工夫し、清掃や消毒により感染症予防対策に努め、清潔で明るい空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室とリビングを行き来しながら、過ごしたい場所でゆっくりしたり、他者と会話して過ごしておられ、廊下に設置しているソファでもよく仲良く会話している姿が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手紙などをいつでも見れる位置に飾ったり、自宅で使用されていた食器、寝具、飾りなどを用いて、居心地のよい環境作りに努めている	入居時に使い慣れた馴染みの物の必要性を説明している。家族はクリスマス飾りや正月飾り等時節に応じ持参され、家族からの便りや写真、プレゼント等が置かれた居室は居心地の良さに繋がり、韓国ドラマにはまったり、オリンピック観戦に興じるなど、自分の部屋として自由に生活する空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不安のある方のために、手摺りでまかなえない箇所には椅子を置くなどの対応を行い、安全の確保に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「和やかに楽しく」を見えるところに掲げてスタッフ全員が共有し、利用者様に笑顔が見られるよう日々のサービス提供につなげています。サブテーマもありそれに沿って実践しています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で思うように外部との交流はできていないが、美容院は利用者様行きつけの所へ行かれたり、訪問していただいている。デイサービスが併設されていて、コロナの感染状況をみて知人の方と交流されている。又、行政より要介護者の避難場所指定を受けている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフの中には天草管内で認知症を支える会「ハートの会」に入会している。「認知症を理解する」をテーマとしてリモートで参加し運営推進会議の時に研修の内容を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中では、認知症の勉強会の報告や、認知症の方の事例を取り上げ、それについてアドバイスをいただいたり、地域の情報をもらう事もありサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事は直接担当の方に尋ねて教えていただいている。また、運営推進会議の委員の中に行政の方もいらっしゃるのので、会議の時に現状を報告しアドバイスをしています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口の外はウッドデッキになっていて、リビングからも見透視のよい環境である。玄関や窓は常に開錠しているので、利用者様が洗濯物の出し入れや簡単な体操を行ったりと外気に触れる事で気分転換にもなっている。言葉かけも否定したりストップするような言葉を使わないよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	インターネットを活用し勉強会に参加し、施設内での対応が虐待に当たらないかを検討している。また、職員で悩んでいる事があると聞いてもらったりして、ストレスから虐待へと発展しないよう心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットで勉強会に参加し、その資料を閲覧し理解してもらっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はそれぞれの書類の内容を時間をかけて説明しています。改定等がある時は文章にして説明し承諾を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のご家族へは、毎月、担当者が書面にして現状を報告しています。来訪時は談話をしてご家族の気持ちを聞いたりしています。家族会もコロナの状況をみて開催する事ができ、意見や要望を聞く事もできた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	お昼休みや空いた時間に職員それぞれに意見を聞き、情報の収集や反映に努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが得意な分野を発揮してもらっている。その内容を年2回の人事考課に記載しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修の参加はできなかったが、法人内での勉強会やネット、リモートで参加している。また、認知症の方の援助方法として、その時に応じてアドバイスを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属し、会議内での意見交換や事業所で苦心しているところなどにアドバイスを得たりしてサービス向上に努めています		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な表情が見られた時や、要望、訴えがあった時は、傾聴し同調の言葉かけ、寄り添ってコミュニケーションを図りながら安心して生活できるよう環境作りをしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いの場で、家族の思いや意向をくみ取り、本人様を交えた会話や何でも話せる雰囲気作りをしたサービス提供により信頼を得よう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様が必要とされている支援を家族の要望を聞いた上で、本人様、家族の思いに沿ったサービス提供ができるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のできる事を本人様のペースで行い、共に支え合う環境作りに努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人様の日々の生活や状態を報告し、受診時の内容や健康面でも、家族の方と共に支え合う環境作りに努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出がいつでもできる環境ではないですが、感染状況をみながら、いきつけの美容院の方には、訪問していただいて散髪うけられています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時のお茶や15時のおやつの際にもリビングに集まれ、気の合う方同士で会話されたり、洗濯物をたたんだりされています。また、洋服類がほつれていたりすると、自分の物ではなくても縫ったりされ、支え合われています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の方にお会いすると近況を伺ったり、ご家族様の体調を案じた言葉かけをしたりしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや本人様との会話や表情から、希望や意向の把握に努めています。また、ご家族にも相談したり情報を得て支援しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話やご家族から、これまでの暮らしや馴染みのある暮らしぶりの情報を得ながら、思いのある品物等持ってきていただき、これまでの生活に近い状態でおくれるよう支援しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の生活のリズムを把握し、無理のない程度でできる事に参加していただいている。その中で個人の色等を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族との関わりの中で、思いや意見を理解し、担当者会議において気づきやアイデアを出し合い反映できるよう努めています。また、モニタリングは各担当者が行い、変化があると次の介護計画へと反映しています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄、身体的状況を個別に毎日記録し、本人様の言葉や変化等があれば記入しています改善しなければいけないことがあれば、みんなで話し合い、共有して介護計画の見直しに生かしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の意向に沿いながら支援していますが、帰宅願望等強い時は、中庭を散策したり隣のデイサービスに知人の方がいらっしゃればお尋ねし気分転換したりして柔軟な対応に努め支援を行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出や外部との交流はできませんが、ホーム内での行事には、一人ひとりのペースに合わせて楽しみながら参加できるよう支援しています。牛深図書館より本の貸し出しがあり、興味のある本を読まれたりされています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である内科の受診には、スタッフ同行し状態を報告しています。検査等で家族の承諾が必要な時は事前に連絡をとり、同意を得ています。歯科は提携医に訪問診療をしてもらっています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックでの異常や様子の変化を見えています。体調の変化があった時は、母体である病院に連絡して指示をえています。また、月2回の訪問看護で状態を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は情報提供書を作成、退院の時は医療連携指示書を受け取り、退院後の介護支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体が病院である為、ほとんどの家族が病院を希望されています。事業所内で支援できるまでは家族、主治医と相談しながら、その人らしく生活できるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは作成しています。勉強会もネットを利用したりして知識を深め、スタッフ間で共有できる様に努めています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災時の避難訓練行っています。車椅子に移乗しての避難や、夜間一人での体制を考慮して近隣の方への協力をお願いしている。夜間は台所に近い場所に待機し、チェックしている。裏山のがけ崩れを想定して、市の指定場所への避難、時間を計測した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや失礼な態度がないよう対応に気をつけています。訪室時のノック、声かけは必ず行いプライバシーの確保に努めています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や仕草から思いを感じとれるよう心がけている。日頃からコミュニケーションも図りながら自己決定ができるよう働きかけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のリズムを把握し、本人の希望されることを優先して支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等は利用者様本人が選ばれ希望されるのを着用されています。時にはスタッフと相談されて選ばれたり、また、散髪の希望があれば、行きつけの美容院から訪問していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好きな献立を取り入れ、野菜等の下ごしらえを分担されています。後片付けも食器拭きを椅子に座られて行なわれています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、食材を刻んだりミキサーにかけたり、分量の調節をして提供しています。水分もこまめに提供、記録もして量の把握に努めています。お茶が苦手な方にはスポーツ飲料水等を購入し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、介助を行っています。義歯使用の方には、就寝前には義歯洗浄剤を使用したりして、個々に合った口腔ケアに努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の動きを見て声掛け行っています。夜間移動に不安な方には、自室にポータブルトイレを設置し、安心や周りを気にせず排泄ができるよう努めています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し記録しています。水分補給やヨーグルトを提供また、レクレーション時簡単な体操を取り入れ便秘の予防に努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛け行い、本人様の希望を優先していますが、入浴が苦手な方には、時間をおいて声掛けしたり一人ひとりが、ゆっくりと入れるよう支援しています。利用者様も昔の事や自分の思いなどをよく話してくださいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活パターンを把握し、休みたい時に休んでいただいている。また、本人様が使用されていた物や寒さを防ぐボアシートや特に寒い時は湯たんぽを使用されたりと、気持ちよく眠られるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診で相談した事や主治医からの指示までを個人の記録に記述し、変化等があれば、申し送りやスタッフ間の連絡ノートに記載し、全員が理解できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様との会話やご家族からの情報を元に、得意な事や好きな事を把握している。それらをレクレーションの中に取り入れたり、縫い物や編み物が好きな方は自室でも作業ができる環境を作り楽しみがもてるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが状況を見て、美容院等への外出の支援しています。天気の良い日は中庭を散策され、咲いている花を摘まれてお部屋やリビングに飾ったりされています。全般的にレベルの低下がみられ車椅子使用の方が多くなり、コロナの事もあり家族と外出の機会は減ってきている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が進行しほとんどの方が館内で預かり管理して、出納帳をつくり家族に確認を得ています。生活必需品や本人様より依頼があればスタッフが購入して、手持ちのお金で支払われる時もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されればいつでも使用できる環境を作っています。携帯電話を持っていらっしゃる方もあり使用されています。また、お手紙がかける方は投函をスタッフに依頼されたり、知人とのやりとりもできています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは中庭をながめられ、春夏秋冬の草花や木々、飛んでくる鳥たちに感動されています。それと、畑の作物の成長ぶりを楽しまれています。また、自室は日当たりがよく、居心地の良い環境です。リビングを出ると、ウッドデッキになっていて、天気の良い時はそこで手すりにつかまり、深呼吸や足上げの運動されています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファールがおいてあり、いつでもくつろいでもらう事ができます。一人でテレビを見られたり、また、お互いが誘い合い一緒に座られ会話等されています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から大切にしていた物等の持ち込みもあり家族との思いでの写真やお孫さんの写真を壁に貼られて、居心地良く過ごしていただいています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の壁には手すりが設置してあり、自室から出るとつかまりながら移動できる環境づくりがしてあり、自力での歩行や転倒を防ぐ工夫がしてあります。また、トイレ等の場所がわかるように表示しています		